

UDL ガイドラインを用いた知的障害特別支援学校の授業改善（要旨）

— 集団の授業における指導・支援への活用の検討 —

特別支援教育サブプログラム 21AE153

三浦 駿介

【指導教員】 名越 斉子 葉石 光一

【キーワード】 UDL 知的障害特別支援学校 集団の授業 授業改善

I 問題の所在

中教審の答申(2021)では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に進める重要性が示された。特別支援学校では、集団の授業において、多様化・複雑化する児童生徒の個々の学びに応じながら、共に学び合える授業づくりが求められていると考えられる。しかし、勤務校では集団の中で個に応じることに苦勞する教師は多い。集団の中での個の学びの保障という観点から、集団の授業の指導・支援には「個々の学び方に応じる指導・支援の不足」と「児童生徒が学び方を身につける・自身で学びを調整するための指導・支援の不足」という課題があると考えた。

これらの課題の解決のために、Universal Design for Learning(以下、UDL)に着目した。CAST が提唱する UDL は、学び方の多様性に応じ、全ての学習者のニーズに合わせられる柔軟なカリキュラムをデザインする理論的枠組みである(CAST, 2011)。UDL では、学習者の学びにくさをカリキュラムの障害と捉え、個々の学び方に注目して、事前に想定した学びの障壁を UDL ガイドラインを用いて除去・軽減する。この UDL ガイドラインを知的障害特別支援学校の集団の授業の指導・支援に活用することで、集団の授業でも、個々の学び方に応じ、児童生徒が学び方を身につけるための指導・支援が行われるのではないかと考えた。

II 研究目的

知的障害特別支援学校の集団の授業の計画・実施に UDL ガイドラインを用いることで、その活用方法と、教師の意識や指導・支援に及ぼす影響を明らかにした。そして、教師の実際の使い方を踏まえ、特別支援学校における UDL ガイドラインの活用の在り方を検討した。

III 研究方法

知的障害特別支援学校の小学部 A 学級の教科別の指導「体育」及び、中学部 B 学級の生活単元学習と、その担任教師、児童生徒を対象とし、各授業の 1 単元について、教師らに UDL ガイドラインをもとに指導・支援を計画、実施してもらった。そして、その指導・支援の検討過程、授業の様子、授業後の指導・支援の評価の様子の観察を行った。また、単元終了後に、対象の教師らに半構造化インタビューを行い、UDL ガイドラインの活用によって生じた変容や、活用の効果と課題等の聞き取りを行った。

IV 結果と考察

1 指導・支援の計画と評価の観察から

指導・支援の計画・評価時の教師らの発言と、授業で計

画された指導・支援から、UDL ガイドラインが「つまづきの原因を考える手がかり」、「指導・支援の目的の整理」、「指導・支援の評価の観点」という 3 つの方法で活用されたことがわかった。また、それらの活用方法は「学びの障壁を見つける視点」、「指導・支援の目的を明確にし、意味・価値を確認する視点」として機能したと考えられた。さらに、知的障害特別支援学校の集団の授業では、集団全体と特定の個それぞれに対して UDL ガイドラインを用いて指導・支援を計画することが、集団の中での個々の学び方の保障につながると考えられた。

2 対象教師へのインタビュー調査から

教師らの回答から、UDL の考え方や UDL ガイドラインの構造が、教師らに個の学び方の理解と指導・支援の省察を促し、集団の中で個々の学び・学び方を意識した指導・支援につながったことがわかった。このことから、活用の効果として「教師の意識の変容」と「指導・支援の改善」が考えられた。また、日常的な授業づくりへの活用には「UDL の理解」と「取り組み方」という課題があり、UDL の理解には伴走者の存在が重要であること、UDL ガイドラインを効率的・効果的に活用するためには、導入の仕方や指導・支援の検討方法に工夫が必要であることが考えられた。

V 総合考察

UDL ガイドラインの活用方法と機能、その効果と課題を整理したところ、活用の仕方に工夫が必要ではあるが、UDL ガイドラインを用いることが知的障害特別支援学校の集団の授業の指導・支援における課題の解決に有効であると考えられた。また、多様で幅広い実態の児童生徒で構成される特別支援学校では、UDL の考え方をもとにこれまでの指導・支援を整理すること、UDL の概念を指導・支援に取り入れることで、個々の学びを保障し、共に学び合える授業づくりが行えるのではないかと考えられた。

VI 本研究の課題と今後の展望

今後は、UDL ガイドラインを用いることが、児童生徒の学びにどのような影響を与えるかを検証していく必要がある。また、特別支援学校において UDL ガイドラインを用いた実践を継続し、授業づくりへの活用における課題に対して、具体的な工夫の仕方を検討していきたい。

【主な参考文献】

CAST(2011) Universal Design for Learning Guidelines version2.0 日本語訳：金子晴恵・バーンズ亀山静子 <https://udlguidelines.cast.org/binaries/content/assets/udlguidelines/udlg-v2-0/udlg-fulltext-v2-0-japanese.pdf> (2022.1.7 最終閲覧)